

ハイブリッド開催



Webex ウェブセミナー情報
ウェビナー番号 2513 893 8472
パスワード Environ@2023

*事前登録は必要ありません

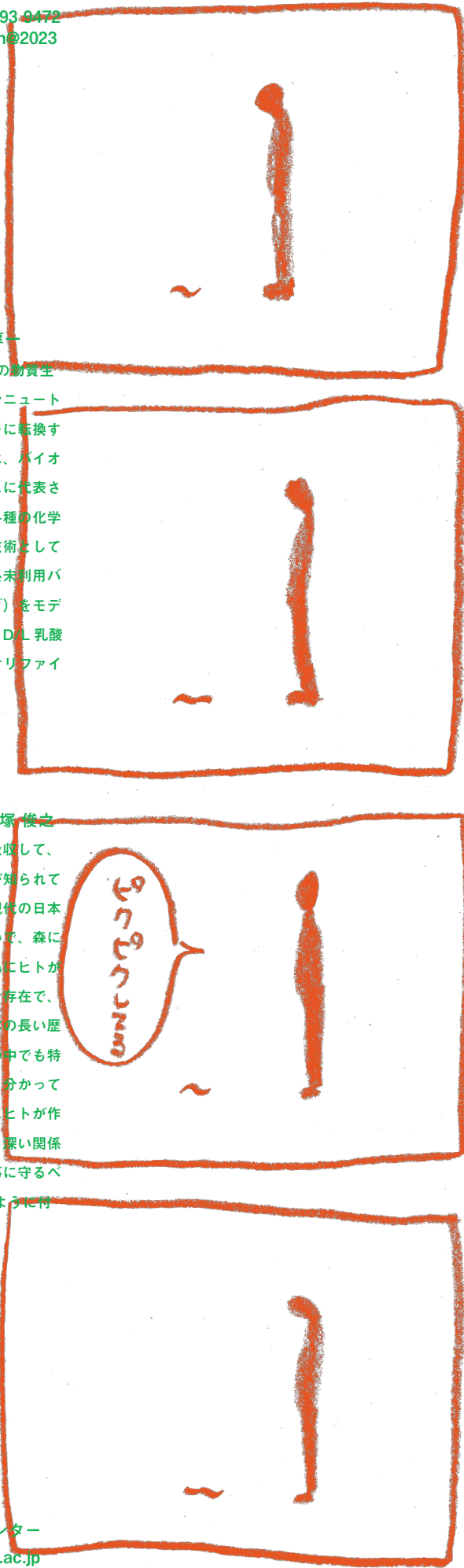
2023.6.16 | 金 |

15:00 - 17:30

@大学センターホール(入場無料)

生物と環境

京都工芸繊維大学
第二十八回公開講演会



開会の挨拶 15:00 - 15:10

副学長 | 中 建介

講演 1 15:10 - 16:10

サーキュラーエコノミーのための バイオリファイナリー開発

京都工芸繊維大学 | 分子化学系 | 教授 | 堀内 淳一

Sustainable な社会システムの構築を目指し、各種の物質生産を化石燃料に依存した化学プロセスから、カーボンニュートラルなバイオマス为原料とするバイオリファイナリーに転換する研究が活発化しています。バイオリファイナリーは、バイオマス等の再生可能資源を原料として、バイオプロセスに代表される各種の環境調和型プロセスによりエネルギーや各種の化学製品を効率的に生産する技術体系で、次世代の基盤技術として期待されています。本講演では、リグノセルロース系未利用バイオマスの一つであるトウモロコシの芯(コーンコブ)をモデル原料として、バイオプロセスによりキシリトール、D,L 乳酸およびアスタキサンチンを生産する第2世代型バイオリファイナリー研究について紹介します。

講演 2 16:20 - 17:20

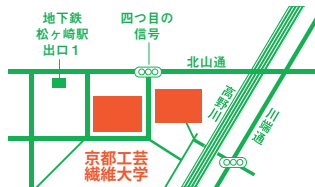
日本の森の成り立ちと、その役割

岐阜大学 | 流域圏科学研究センター | 教授 | 大塚 俊之

20 世紀末において、先進国の森は多くの CO2 を吸収して、温暖化緩和にとても重要な役割を果たしてきたことが知られている。しかし、先進国の中でも特に森の割合が高い現代の日本では、花粉の時期に厄介者として思い出されるぐらいで、森にはほとんど関心がないようにみえる。実は、日本列島にヒトが住むようになってから常に、森は資源として重要な存在で、これほどまでにヒトが森に無関心になったのは、日本の長い歴史の中でほんの半世紀ほど前から過ぎない。日本の中でも特に多様な森が成立する岐阜県において、森の研究から分かってきたことは、ほとんどの森の構造は直接的、間接的にヒトが作り上げたものであり、その機能は過去のヒトの利用と深い関係があるということだ。森は、決して遠くにおいて大事に守るべき存在ではない。我々日本人は、21 世紀に森とどのように付き合っていくべきだろうか。

閉会の挨拶 17:20 - 17:30

環境科学センター長 | 前田 耕治



主催 | 京都工芸繊維大学 | 環境科学センター
お問い合わせ | 075-724-7976 | info@environ.kit.ac.jp

緑の地球と共に生きる